

第18回 BC州日本語弁論大会  
2006年3月11日(土)  
優秀作品集

BC州日本語弁論大会実行委員会

この作品集は、参加者の原稿を元にBC州日本語弁論大会実行委員会が編集したものである。

## 第18回BC州日本語弁論大会

日時：2006年3月11日 土曜日 午前10時00分

場所：UBC アジアセンター、オーディトリウム

コーディネーター：Rebecca Chau (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

Noriko Omae (SFU/サイモンフレーザー大学)

司会者：Austin Bonner(UBC)

Yvonne Kong(UBC)

審査員：Motoaki Egawa (JALTA)

Terumi Fisher (Rick Hansen Secondary)

Akihiro Morimoto (Global Partners)

Yasushi Motooka (Konwakai)

Yoko Murakami (JALTA)

Maki Ode (UBC)

Sharalyn Orbaugh (UBC)

Michiko Suzuki (UBC)

Akemi Takei (Langara)

Catherine Yamamoto (Riverside Secondary)

Matthew Yoshitake (Kiyukai)

Toshiyuki Taga (Consul General of Japan in Vancouver)

出場者：

【高校 初級】

1. Amy Bae                      この世の中に不可能はない  
   The word 'Impossible' does not exist
2. Ting-Yu Chen                日本語への情熱 The passion of Japanese Language
3. So Hee Hong                 今の私が好きです I like the way I am right now
4. Jung Hee Jang                ふいにあらわれたヒーロー An unexpected hero
5. Hae Won Lee                 あきらめないで Never Give up
6. Percy Lee                    一人ぼっちな夜 Home Alone
7. Hye-Ri Park                 ちちのなみだ Father's tear
8. Clara Rozee                 新しい日本のイメージ -日本人形からきよだいなマグロ  
   Japanese Dolls to Giant Tuna: My Changed View of Japan

【高校 中級】

1. Ki Hwan An 不朽の名作 The Masterpiece
2. Jianan Chen さべつとは What's racism?
3. Andy Hsu 二人で一人 Two as One
4. Hye Ji Kim 声のマジシャン The magician of Voice
5. Min Seok Kim 母の涙 My mother's tear
6. Yae-Ji Ra あたたかい三人の日本人 Three Japanese People

【高校 オープン】

1. Farley Jiang ゲーム Game
2. Sachiyo Negishi 自分/人 Oneself / Human

【大学・一般 初級】

1. Kevin Lee 「どうだ、すごいだろ！」 How's that! I'm brilliant, aren't I?
2. Jill Lo 私たちの生涯 Our lives
3. Cory Stade へんなペット An unusual pet
4. Yidou Wong 日本人との距離感 Distance with Japanese
5. Soo Hyun Woo 「この冬休みの決心」 The decision of this winter vacation
6. Mickey Wu ゆめ Dream

【大学・一般 中級】

1. Julie Chang 今の時期の高校の教育 The Current High School Education
2. Chris Gradin 温泉での体験 My Experience at the Japanese Bath
3. Jin Hwan Kim 今は協力の時代 Now is the time to cooperate
4. Cathy Liu なぜ大阪弁がメッチャ好きですか Why I like Osaka Dialect
5. Paul Save 外来語の大きな落とし穴 The Foreign Language Pit

【大学・一般 上級】

1. Yoori Lee ジャパングリッシュ Japanglish
2. Jessica Lu アイコンタクトについて The Importance of Eye Contact
3. Linda Wu たまごっちのブームから日本人の集団意識を Group Consciousness and Economic Development – The Tamagotch Example –
4. Yao-Chang Yeh 一緒に食べようか Let's Eat

【大学・一般 オープン】 (該当者なし)

## 入賞者

### 【高校部門】

初級部門	第1位	Jung Hee Jang	「ふいにあらわれたヒーロー」 (さいたま・ナナイモ友好都市賞)
	第2位	Hae Won Lee	「あきらめないで」
	第3位	Clara Rozee	「新しい日本のイメージ」 —日本人形からきよだいなマグロ
中級	努力賞	Percy Lee	「一人ぼっちの夜」
	努力賞	Hye-Ri Park	「ちちのなみだ」
	第1位	Yae-Ji Ra	「あたたかい三人の日本人」 (さいたま・ナナイモ友好都市賞)
オープン	第2位	Min Seok Kim	「母の涙」
	第3位	Andy Hsu	「二人で一人」
	努力賞	Jianan Chen	「さべつとは」
	努力賞	Hye Ji Kim	「声のマジシャン」
	第1位	Farley Jiang	「ゲーム」(さいたま・ナナイモ友好都市賞)
	第2位	Sachiyo Negishi	「自分/人」

### 【大学・一般部門】

初級	第1位	Yidou Wong	「日本人との距離感」(白老・ケネル姉妹都市賞)
	第2位	Kevin Lee	「どうだ、すごいだろ！」
	第3位	Mickey Wu	「ゆめ」
中級	第1位	Paul Save	「外来語の大きな落とし穴」(白老・ケネル姉妹都市賞)
	第2位	Jin Hwan Kim	「今は協力の時代」
	第3位	Cathy Liu	「なぜ大阪弁がメッチャ好きですか」
上級	努力賞	Chris Gradin	「温泉での体験」
	第1位	Yoori Lee	「ジャパングリッシュ」(YOKE賞)
	第2位	Linda Wu	「たまごっちのブームから日本人の集団意識を」
オープン	第3位	Jessica Lu	「アイコンタクトについて」
	第1位～第3位	該当なし	

## ふいにあらわれたヒーロー

Jung Hee Jang

もしあなたが絶望したら、誰があなたに勇気をあげることができますか。オリンピックで金メダルを取った選手ですか。ハリウッドのスターですか。がんばりやで勝ち気な私が死にそうぐらい悩んだ時、勇気を与えてくれたのはホームレスの人たちでした。私を助けてくれたのか聞いて頂きたいと思います。

2年前、私は世界のことが分かる大人になるために、外国で勉強したいと、両親を説得してカナダにやってきました。

空港に着いた日、私は元気いっぱいでした。でも学校が始まると、難しいことが、たくさんありました。一番困ったのは、勉強です。私はESLクラスでしたが、行きたい大学に行くにはレギュラークラスに入らなくてはなりません。学校から帰るとすぐイングリッシュアカデミーで勉強して、それから家で家庭教師と勉強しました。その後宿題をするので、夜中の1時に宿題が終わったらとてもうれしかったです。

運動もそうです。ずっとカナダに住んでいる友達と違ってサッカーやホッケーなんて、一度もしたことがなかったのです。でも運動が苦手な私も同じようにがんばらなければなりません。疲れとストレスで何度も「もう止めて韓国に帰りたい」と叫びそうになりました。でも両親はお金のことを心配しながらも協力してくれているのです。自分から言い出してここに来たのに「帰りたい」とは言い出すことができませんでした。

そんなとき、月に一度ホームレスの人たちに朝ご飯を作ってあげているボランティアグループに出会いました。家族もお金も家もないけど、みんないつも笑顔で感謝の気持ちを持っていました。「これ以上何も失うものがないところまできたたホームレスの人たちも出来る限り頑張っているのだ。私は自分のためなところばかりを見て、がっかりして、前を見ていなかった。」と気づきました。彼らが私に自信を持って笑える日まであきらめるなど、前に進むように教えてくれました。

この日から私は毎日運動し、友達とたくさん話し、学年で5番に入るまでがんばりました。とても勇気が入りましたが、もっと上を目指して学校を変える決心もしました。そして今、私はどう見えますか？私は家族や友達に感謝しながら、新しい生活を楽しんでいます。いつか国連やユネスコで働けたらと私の夢は広がります。

## あきらめないで

Hae Won Lee

カナダに来て一ヶ月ぐらいたったある日、私が学校から帰る途中、突然誰かが私の背中をたたきました。何回も何回も汚い言葉を言いながらぶったり髪の毛をひっぱったりするのです。私はびっくりして「やめて」と言いながら泣いてしまいました。その人たちは同じ学校のカナダ人の2人の女の子でした。うすわらいを浮かべて、からかって、つばを吐きました。本当に私は何が起きたのかよく分かりませんでした。

私は家へ逃げ帰って、くやしくて悲しくて大声で泣きました。カナダが地獄のように思えました。私はカナダに英語の勉強のために来たのに、どうしてカナダの学生にいじめられなければならないのかと腹がたちました。でもしばらくして私がもしこんなに泣いてばかりいたらこれから起きる困難に向かっていけないと思い始めました。「私に出来ることは何だろう。」、「私にもこれを止めることができるはずだ。」と思いました。

私は次の日すぐにカウンセラーを訪ねてこの話をしました。私を苦しめた学生たちが誰かを探しましたが、その学生たちは前からアジアの学生たちをいじめていたことがわかりました。人種差別があるのは知っていました。でもそれが自分に起こるとは想像できませんでした。

人種差別はお互いをよく知らないことから起こるのでしょうか。だから私はまずカナダのことやカナダ人を知ったり、韓国や自分を知ってもらおうと考えました。そしてすぐに学校のクラブで韓国語を教え始めたり、テニスチームやネットボールチームにも入りました。また、コミュニティのスキューバダイビングも始めました。私の家の隣のシニアホームのボランティアも始めました。

あれから2年、今、私はカナダが好きですし、毎日が楽しいです。人種差別は大きい問題です。でも私は、私に起こったその事件によってどんな問題からも逃げないでがんばれると言う自信をもらいました。

## 「新しい日本のイメージ」—日本人形からきよだいなマグロ

Clara Rozee

見るのと聞くのはとても違います。日本に行って本当にそう思いました。それは素晴らしい発見でした。

去年八月に突然日本の女子高校に行ってホームステイが出来ることになりました。母は、この話が来たとき、「あなたはまるで宝くじに当たった時のような顔をしていたわよ」と言いました。これを聞いた時、そうだ、これが私の本当の気持ちなんだと思いました。日本に行くのがちょっと怖くて悩んでいた私も、日本に行く決心ができました。小さいときから、母に日本の本を良く読んでもらった私は5歳の時には寿司を食べたり、スタジオジブリの映画をみたりしていました。5歳の時の誕生日のプレゼントは日本人形でした。

八月の中頃、私は日本に着きました。今まで聞いたこと、本で読んだことを思いながら、何をこれから発見するのかわくわくしていました。今日は私にとって特別な2つの経験をお話ししたいと思います。

まず、築地の魚市場に行ったとき、どれだけびっくりして興奮したかお話ししましょう。まるで何マイルも続くかのような市場。海のおい。数え切れない程の魚。まだ世界の海に魚は残っているのかしらと本当に考えてしまいました。大砲のように大きくて、黒いマグロ。冷たい氷のおい。びっくりして、写真を撮るのを忘れしました。

次の発見は、スーパーマーケットでした。カナダで私は何回も行ったことがあります。日本のスーパーマーケットは本当に、カナダのとは違いました。砂糖と洗剤みたいなにおい。ヘンゼルとグレーテルみたいなパン。100円で遊ぶ UFO キャッチャー。私が10秒ごとに立ち止まってびっくりした顔を見ると、ホームステイのお母さんは「買ってあげましょうか。そんなに珍しいの。」と言います。そんなことをしたらお母さんはスーパーマーケットを全部買わないといけなくなります。

私の発見は、私が自分の目で見て、自分の手で触って感じたものです。においもありました。やっぱり本や写真で知る物とは全然違います。私の発見は私の心の中にあります。最後に本当に本当に親切で愉快的な日本の家族に感謝したいと思います。

## 「あたたかい三人の日本人」

Yae-Ji Ra

おはようございます。みなさん、私は高校三年生のエミリーです。この忙しい人生の中で日本人にめぐり合えた事は奇跡的な事です。難しい問題があったり、さびしかった時、私と家族を助けてくれた人達はみんな日本人です。私の両親は去年離婚しました。そして、私は家に帰ることも生きていく事も嫌になりました。そんな時、私を助けてくれた人は学校の日本語の先生でした。彼女は私をはげましてくれて望みを与えてくれました。そばで私を守って一緒に話してくれた人は彼女だけでした。

母は父と離婚した後、シングルマザーになりました。それは彼女にとって私の学校の鞆よりおもしろい事になりました。長女の私でもしなかった手伝いをした人は、また日本人でした。長くて黒い髪の毛が本当にきれいだった。その人は妹と弟と一緒に笑っていて、大人の問題を分かりやすく私たち子どもに説明してくれました。私に“いつでも日本語の練習に電話かけてね”と言いましたが、私は恥ずかしくて電話も感謝もしなかったのです。それが今は残念です。

私の1番仲良しの友達は、しずちゃんです。彼女は日本人ですが、ロサンゼルスで生まれて、今、コキットラムに住んでいます。彼女に会う前、私の頭の中で日本人はみんな完璧な人達で何も他に欲しい物や必要な物がないと思っていました。でも、しずちゃんは“きれいになりたい”とか“かわいいボーイフレンドが欲しいな〜”という普通の女の子でした。彼女のおかげで日本人や日本の国に対してもっと近く感じて、日本語の勉強を私は高校で始めました。

私が来年大学へ行って日本語を習いつづけると決めたのは、このあたたかい三人と日本語で話したいからです。将来、日本に行ったら、子どもたちに私の先生が言ってくれた言葉を言ってあげたいんです。そうすれば、母を手伝ったあの人にも感謝する事になるでしょう。もちろん、東京ディズニーランドにも行きます。

今でも日本語の先生のはげましの言葉を覚えています。“自信を持っていきなさい！”  
はい、先生！がんばります！

## 「母の涙」

Min Seok Kim

“やっぱり、俺なんて何もできないさ” 今ぼくは12年生ですが、これが私が2年前までずっと思っていた事です。韓国からカナダに留学しに来たけど、父と母の期待とは裏腹に私は学校では問題学生で、ホームステイ家族の中でも問題で、みんなに無視され、憎まれていました。それに、私のことをいつも信じていた韓国にいる親にさえ失望をさせてしまったことも多いです。

韓国から来たばかりの私に一番苦しかったのは文化的な違いでした。カナダ人とは友達になれなくていつも韓国人達と遊んでばかりいました。自然に英語は上手になるどころかどんどん一番嫌いな科目になりました。しかし10年生の冬休みに、私の人生にとって一番大きな変化が起きました。

10年生の冬休み、韓国でムダな時間を過ごしていた私は父に呼ばれ、座るように言われました。父は私の目の前でカナダに帰る飛行機のチケットを破ってしまったのです。ちょっとびっくりしましたが、どうにかなるだろうと軽く考えていました。ところが、母は泣きながらどうにかして破ってしまったチケットを急いで元に戻そうとしたのです。その時私は初めて母の涙を見ました。

その時からです、初めて自分の将来について真剣に考えてみたのは、もし俺の生活態度を変えなければ、たぶん未来の俺はどこかで誰かにお金を借り、恐ろしい顔をして昔のことを後悔して暮らしているだろう。このままじゃ本当に自分はそうになってしまうだろう。何かを始めなきゃと必死に感じました。そうだ、日本語をがんばってみよう。日本語を選んだ理由は近くの日本語教室の先生がきれいだという理由だけではなくて昔から日本の文化や言語に関心があったからでした。

最初はものすごく難しくてあきらめちゃうかと考えてみたこともありますが、すればする程、どんどんおもしろくなってきました。ミミズにしか見えなかった平仮名と騒音にしか聞こえなかった日本語がいつの間にか意味を持つ言葉になった感激は今も忘れられません。

父の厳しさと母の優しさに心を動かされ、日本語の勉強を始め、たくさんの事をもらいました。日本語はぼくにどんなことでも一生懸命すれば出来るという信念と大きな自信を与えてくれました。それに、カナダでもう一度勉強する機会も与えてくれました。今ではぼくはどんな事があってもやり遂げられる勇気ができました。

## 二人で一人

Andy Hsu

僕の兄は、腹違いの兄弟で、兄が七歳の時、僕達と一緒に住むようになりました。小さい頃から僕は優しい兄が好きでした。僕が父に叱られるのが怖くて家出した時、兄はすぐ僕がどこにいるか、見つけてくれました。僕が悪いことをして両親に叱られていると、いつもかばってくれました。両親は八年前から仕事が忙しくて、ほとんど家にいなくなりました。だから僕と兄は二人で過ごすことが多く、二人で助けあわなければなりませんでした。兄が買い物をしたりメールをチェックし、僕が食事を作ったり掃除をしたりしました。

でも僕達はまだ子供でおまけにとっても悪ガキでした。勉強が嫌いで気に入らない奴を見るとすぐけんかをしました。兄もいたずらでいい子ではありませんでしたが、僕はもっと無鉄砲でたくさん悪い事をしました。ついに、十年生の時に警察につかまり、新しい学校に移りました。新しい学校へ移ってから、僕はどんなふうに生きていけばいいのか考えるようになりました。そして夜、眠れない時、隣の兄の部屋をノックして、来てもらいました。僕達はそれから夜通し、色々な話をしました。「これから僕はどうしたらいいのだろうか。どんな方向へいったらいいのだろうか。」僕は金持ちになりたかった。だから「徹底的に悪くなって、ギャングになって稼ごうか。合法的に金持ちになろうか。」と兄に相談しました。兄は「悪くなったらリスクが大きいし、良くなるには多くの努力が必要だ。でも中途半端が一番良くないんじゃないか。」と言いました。僕は決意しました。始めは、勉強熱心な新しい学校になれなかった僕も、だんだん学校をさぼらず勉強するようになりました。そうしたら学校もおもしろくなり成績も良くなりました。僕は兄より科学と数学ができますが、兄は僕より言語と歴史が得意です。だから僕達はお互いに勉強も助け合うようになりました。今、成績は平均九十二パーセントになり、両親も、喜んでいます。

来年、僕はトロント大学へ行きたいと思っています。兄もトロント大学の大学院へ行く計画を立てています。兄と一緒に住むつもりです。兄と僕は結婚した後もできれば一緒に二つの家族で住みたいと考えています。

今は、僕達はお互いになくてはならない存在です。僕と兄はまるで二人で一人のようです。

## ゲーム

Farley Jiang

最近、ゲームは桜が咲くように人気になり、人の毎日の生活に入りました。でも、よく考えると、今、人がゲームと呼ぶのはビデオゲームのことで、昔のボードゲームを遊ぶ人は少なくなってきました。これはいい事でしょうか、それとも悪いでしょうか。

ボードゲームは数千年の歴史があって、人々に親しまれました。ボードゲームはビデオゲームと違って、遊んでいるうちに勝ち負けを忘れてみんなで楽しいときを過ごすのが本当の目的です。でも、ビデオゲームと比べるとそれほどわくわくしません。

近年始めて市場にゲーム機が量販されました。SONY のプレイステーション2とプレイステーションポータブル、MICROSOFT の X-BOX 360 が市場の中心。コンピューターゲームも増えてきて、たくさんのゲームは今インターネットを使ってオンラインで友達と一緒に遊ぶ事ができるようになりました。最近ではオンラインコンピューターゲームの中で無料のゲームも少なくはなくて、これで店に行ってもゲームを買いたくない人も気軽に家でダウンロードして友達と遊べるようになりました。これはどちらかというといい事だと僕は思います。コンピューターが家に一台あれば外国の人とまで一緒に遊べるようになったからです。でも悪いことがないとも言えません。子供がビデオゲームを遊ぶことで家族と過ごす時間が少なくなりました。だからほとんどの親は子供がゲームで遊んでいるのが好きではありません。

どうして遊び始めたら止められなくなるのでしょうか？一つ目の理由は負けたくない心。今たくさんのゲームは勝つか負けるかのゲームだから、勝たないと止めたくない人が多い。二つ目の理由はレベルアップ。RPG 類のゲームはレベルが上がらないと止めたくない。もうひとつの理由はただ面白いということ。変ですけど、たくさんの人は実際この理由でゲームを楽しんでいます。最後の理由はゲームで他のことを忘れたいということ。この理由も数はほかに比べて少なくなく、でも実際にはあります。

現代のゲームは3-D をサポートするのが多くなってきました。これも良い所と悪い所があります。これならたくさんの2-D では不可能な動きまでできるようになりました。例えば、レースゲームも3-D になれば2-D よりずっとリアルで面白いし、左右上下、そして前後まで本当のようにコントロールできます。でも、近代のこのようなゲームは、乱暴なものが増えてきました。一番よく見られるのがFPS 類。ピストルなどの銃を使って他の人を殺すのがゲームの目的。このようなゲームは血が多くて、特に小さい子供には全くに適していません。2002年の研究でこのようなゲームを遊ぶと血圧が上がって心臓に負担があると言われていました。その上にこのようなゲームを長い間遊ぶと攻撃的な思い

や動きが時々生まれることがあります。例えすぐに症状が出なくても十年または二十年後に出てくる可能性もあります。研究では、このようなゲームを遊ぶ人は他の人を助ける心が弱いのも分かりました。FPS のほかにもいろいろな乱暴なシーンを含むゲームが今、市場に多い、そして多くの方はこんな現実をよく知りません。

ビデオゲームやコンピューターゲームはこの新時代にも子供から大人にまで愛され続けられ、いい事も悪い事もあると知りながら。

高校生

第18回オープン第2位

## 自分/人

Sachiyo Negishi

人は皆、誰かになろうとします。自分以外の誰かに。なろうとしてなれるわけではないのに。人は誰かになろうとして仮面を被ります。仮面を被る事で人は自分に嘘をつくのですね。いつまでも嘘をついているわけではないと知っていても。やがて仮面がとれ、嘘がばれ、作りあげてきた偽りの世界が壊れる時、人は自分の愚かさに、無力さに気付かされ傷つくのです。傷つくのが分かっている人も人は仮面を被らずには、いられません。それが人なのです。

傷つかない為にはどうしたら良いのか、何をしたら良いのか。それは自分を好きになる事です。自分を好きになる為には、人は自分の良い所を見付けなくてははいけないのです。良い所は誰にでもあるのですから。どんな小さな事でもいい、良い所を見付ける事で、人は自分を好きになれるのです。たとえその良い所が「アイロンがけが得意」というようなどうでもいいような事でも、良い所がある事によって人は自分を好きになる事が出来るのです。どんな事でもいい、良い所があるのだからその自分を好きになってあげなくてははいけません。人は自分を好きにならないと何も始まらない、前に進めない。自分を好きになる事で人は始めて自分を認める事が出来るようになるのです。

自分の良い所も悪い所もみんな認める為には人はもっと自分の事を良く知らなくてははいけません。人は自分の事を一番良く理解しているようで本当は一番理解していません。たとえば、とっても仲のいい友達に恋人あるいは好きな人が出来たと知った時、喜ばしい事なのになぜかうれしくない自分。なぜか分からないままどんどん悲しい気持ちでいっぱいになってしまう自分。そんな自分の事が理解できた時、人は自分を認める事が出来るようになるのです。

人は自分を好きになって、認めて、信じる事がきるのです。それはとても大変だけれど、それが出来た時人は本当の自分になれるのです。本当の自分になれて初めて目の前にある

壁を乗り越える事が出来るのです。壁を折り越える事は今までの自分を超越する事です。自分を越え、変わる事ができるのです。人は誰かになる事は出来ないけれども変わりたいと思えば変わる事が出来るのです。変わる事で人は自分を高めて行きます。本当の自分を育てていきます。仮面を外し壁の向こうにある道を一步一步進んで行くのです。

人はしょせん自分でしかないのです。他の誰でもなく自分なのです。誰かになれたとしても、その自分を嫌っている人は絶対にいる。誰かに嫌われていない人間なんてこの世にはいない。誰になろうと、誰であろうと世界中の人々に愛されるわけでわない。なら自分でいた方が良いのではないのでしょうか。その自分を好きでいてくれる人、好きになってくれる人がいるのですから。誰かになる必要などありません。自分であればいいのですから。誰かの生き方をまねしてきょうくつな生活をするより自分でいて自由に楽しい生き方をした方が良いのですから。ありのままの自分で生きて行く事がどんなに大変でも仮面を被る必要はありません。自分の生き方が一番自分にあった生き方なのです。

大学・一般部門  
第18回初級第1位

## 日本人との距離感

Yidou Wong

私は日本文化の魅力はその長い歴史と、優雅さにあると思います。前に取った日本文化のクラスと、私個人の経験から、日本人は、思っていることを遠回しに表現する傾向があることを知りました。例えばそれが重要な会議であったとしても、友達との普段の会話であったとしても、お互いを傷つけあいたくないので、日本人ははっきりと自分の意見を言わないようです。謙虚な姿勢や言い回しが、直接的に物を伝える事より大事なのかもしれません。ところが、私が住んでいるカナダでは、直接的に物事を表現することが、大切です。こちらでは自己表現することによって人間関係を作ることが普通なんだと思います。これは、日本の遠回しの文化とはずいぶん違います。

三年ほど前、とても退屈な英語のクラスの後、1人の日本人のクラスメートに、こう聞きました。

「クラス楽しかった？」

彼女は「うーん。」と言っただけで、はっきりとクラスの事を言ってくれませんでした。当時の私には何だか訳のわからない会話でした。彼女にとってクラスは退屈だったのか、それとも楽しかったのか、全く解りませんでした。どうして退屈なら退屈と言わなかったのだらうと思いました。でもそれから、日本文化について少し学んだので、理由が少しずつ解って来ました。日本人は、特に他人を傷つけるかもしれないことは、遠回しに表現

するので、きっと彼女はその英語のクラスの先生に対して、退屈だと思ふことを悪いと思ったのでしょうか。それとも、私とそのクラスが好きかもしれないので、その反対の事を言うのは良くないと思ったのでしょうか。こんな時、日本文化を知っていないと、その日本人との間に距離感を感じるかも知れません。それに、大きな誤解をしてしまうかも知れません。日本人のイエスはノーの意味である時もあるからです。それに、また、このコミュニケーションの距離感は悪い事であったり、良い事であったりするので、それを理解することもまた、大変だと思います。例えば、距離感があると、その相手に対して親近感が湧かなかつたり、逆に距離感があると、安心感が出来て、プライバシーを守ることが出来るからです。

私は日本人の友達と良い人間関係を作るためには、お互いにとって居心地の良い距離感を持つことが重要だと思います。そのためには、日本文化を理解して、謙虚に日本人と会話をすることが重要だと思います。

私にとってこれは、大変な努力が要りそうですが、私はそんな日本人の謙虚さがとても好きなので、これからも日本人と日本人の文化について、もっと勉強を続けたいと思います。

大学・一般部門  
第18回初級第2位

どうだ、すごいだろ！

Kevin Lee

私は、とても日本語に興味があります。それは、私がまだ子供の時に始まりました。その時、私はアニメが好きで、よく見ていました。日本語はまだ分からなかったのですが、いつもテレビを見ながら、アニメのオープニングソングを歌っていました。私はいつも他の人に、「どうだ、すごいだろう！僕は日本語を知ってるんだぞ」と言っていました。でも、実は本当に知っている日本語は「一番」と「ちょっと待ってよ」だけでした。それに、発音はいつもまちがいだらけした。それで、私の日本語は全くすいどころではありませんでしたが、別に恥ずかしくありませんでした。でも、私は自分が日本語をすこし知っているから、他の人より本当に「すごいんだ」と思っていたのです。つまり、日本語がわかることは私の誇りだったのです。

中学生になった時、日本語をちゃんと勉強しはじめました。すべて基本から始めました。でも、子供の時、テレビで習った日本語は、日本語のクラスの中ではぜんぜん使うことができませんでした。私はもう「どうだ、すごいだろう！」と言うことができませんでした。

それから私は一生懸命に日本語を勉強しました。もう一度すごくなる為には、私は何で

もしました。例えば、平仮名と片仮名を毎日使って、新しい単語を十個覚えました。そして、五年後、ついに東京に行く機会がやって来ました。

この五年のあいだに、私の日本語はとても上達したので、東京で一週間、毎日色々な日本人たちと日本語で話しました。その日本人たちは、みんなとてもびっくりしました。それは外国人の私がべらべらと日本語を話したからです。でも、もう「どうだ、すごいだろ！」などと言いませんでした。私にはもうそんなことを言う必要がなかったからです。確かに、日本語がわかることは私の誇りですが、いつもそんなことを言っていれば、ただの傲慢な人になるだけです。自分の能力がすごいかすごくないかは、他の人が決めることだと思うからです。もし自分がすごければ、必ず他の人がそうしてくれるはずです。ですから、私は自分の目標を決めて、毎日頑張って勉強しつづけていくつもりです。

大学・一般部門  
第18回初級第3位

## ゆめ

Mickey Wu

こんにちは、ミッキーと申します。

夢は僕にとって、大切なものです。

昨晚見た夢を話すのは恥ずかしいので、ここでは、人がいただく未来の夢について話したいと思います。

友達とクラスメートに“将来は何をしたいの？”と聞いても、“知らない”、“仕事があればいいんだ” くらいの答えしか返って来ません。彼らは、夢ではなくお金があるだけで満足なようです。彼らはやりたい事のために精一杯がんばろうとはしません。子どもの時に夢見ていたことを全部忘れてしまっているようです。

僕の兄もその1人です。彼は子どものとき絵を描くのが上手でした。長い間、プロの漫画家になりたがっていたのを覚えています。昔はいつも面白い漫画を描いて周りの人を楽しませていました。台湾にいるとき、高校でも美術を勉強しました。でも、カナダに来てからは、友達と遊ぶだけで、漫画を描く機会が少なくなりました。トロントの美術大学に入っても、特に大学の授業を楽しんでいる様子もなかったし、昔のように、みんなを喜ばす作品をつくることはありませんでした。

兄は、今は大学を終えて、コンピューターグラフィック関係の会社で働いています。でも、同じことです。特に楽しんでいるようには見えません。「もっと立派な作品を制作したい」と考えることもありません。毎日仕事がおわると、家でゲームをしたり、テレビを見たり、たまに友達と一緒に遊びに行つては、帰宅して寝るだけ。そしてあくる日は同じ

ことをくりかえすのです。将来について僕が尋ねても、夢はあるようですが、兄がその夢のために努力をしてようには思えません。

これでは、夢ではなく、ただの空想です。兄だけではありません。こういう人にたくさん出会ってきました。いつも「こうしたい、ああしたい」と言うけれど、ただ口だけで、その夢の実現のために努力しようとしません。僕には彼らがゾンビのように見えます。彼らが生きているのか死んでいるのか、わかりません。僕は彼らに夢を持ってもらい、その可能性を信じて欲しいのです。

僕は、夢は人にとって大切なものだと思います。生きているしょうめい。生きている意味。自分の夢のためにがんばる人は、一番輝いています。

たとえば、キューバのかくめいか、チェ・ゲバラは、僕にとっては輝いている人のひとりです。貧民の生活を改善するために闘いました。カストロとは違います。ゲバラはカストロのやり方に賛成できなかったので、キューバから出ていきました。キューバ人だけでなく、アフリカの人々のためにも闘ったのです。彼は、最後まで自分の夢を信じ、アフリカでその生涯を閉じました。

もちろん、僕にも夢があります。ゲバラとくらべて小さいですが、その夢を信じています。その夢とは、コンピュータグラフィックスで人々が感動するものをつくることです。何でも作れると思うし、映画、アニメ、ゲームといろいろなアート分野で活躍できます。僕の作品を見て、人が夢をつむぎ出す。そんな作品をたくさん作りたいのです。

今、僕はまだ学生です。でも、必ずこの夢の実現ためにがんばりたいと思います。人生は短いといいますね、それならやりたい事をやるべきです。僕は、自分の夢を編んでいきます。

あなたには、今、夢がありますか。今、輝いていますか。

大学・一般部門  
第18回中級第1位

## 外来語の大きな落とし穴

Paul Save

私はセーブ ポールと申します。しばらく前になりますが、私は1年ほど日本に住んでいた経験があります。日本で生活をしてみて気付いた事はどこに行ってもカタカナ英語が使われているという事でした。バス、レストラン、スーパー、デパートなど数えたらきりがありません。今日はこのカタカナ英語についてお話したいと思います。

現在、日本語は欧米文化の影響で、変わりつつあるとおもいます。昔と比べて、現在は外来語が増えています。もちろん、日本語にうまく訳すことが出来ない言葉も増えている

けれども、心配なのは日本語に訳すことが出来る又はすでに出来ているのにわざわざカタカナ語をつかっている場合が多く見られるようになった事です。カタカナ語を使うと話している人の教養が高いように見えたり、新しい欧米文化にくだしいように見えるかもしれませんが、私は増えていくカタカナ語のために日本語の良さが失われていくようで心配です。

日本語で表現できる言葉を最近ではカタカナで表現する事が増えてきているような気がします。これはテクノロジーの進歩とも関係があるでしょう。そして日本語に変換しにくい言葉も増えていとおもいます。日本人がカタカナを使い始めた理由は、もともと日本になかった考え方や品物など訳す事が出来ない外来語を日本語で使うためだったけれども、今はわざとカタカナ語を使っている場合もたくさんあります。例えば私の日本語の教科書にアクティビティという項目があります。これは練習問題の事なのですが、なぜわざわざカタカナ語のアクティビティを使っているのか、その必要性がよくわかりません。ほかにカラフル、ビューティフルなど本来日本語にあった言葉がカタカナに変わってきています。

わたしはカラフル、より色彩豊か、や豪華絢爛、という日本語のほうが美しい着物の色を表すのにふさわしいし、満開の桜は、ビューティフルな桜より、美しい、爛漫、といった日本語の方が 花の咲き乱れた様子を表現するのにふさわしいと思えます。カタカナの中には、スマートやヒップなどカタカナになって意味が英語と違ってしまったものもあります。ある日本人の女の子の人がスマートになりたいといったので 頭がよくなることかと思ったら 体重を減らすことでした。英語にもそんな例があります。すしというところらではカリフォルニアロールがすぐ浮かびますが、日本にはそんなすしはありません。言葉は違った文化に取り入れられることによって 本来の意味が失われていくのではないのでしょうか。

日本語ははば広く外来語を受け入れて使っていますが、私は日本語には日本語で表現されるからこそ意味の深さを伝えられる言葉がたくさんあると思います。そういう日本語本来のよさをもう少し見直すべきだと思います。そうしなければ、日本語が失われていくだけではなく、日本の伝統的な文化や歴史の流れなども同時に消えていってしまうような気がします。私は日本語を通じて日本の文化や日本人の価値観などを学び、その事におもしろみを感じているので、このおもしろさを次の世代の人達、日本人にも、外国人にも味わってもらいたいとおもいます。日本人はもっと日本語の豊かさを考え それを使い続けていってほしいと願っています。

## 今は協力の時代

Jin Hwan Kim

1942年にある韓国人の青年が若い兄弟と目が見えない母親を家に残して戦争に行きました。その青年は日本の軍服を着て他の韓国の若い男の人と同様に世界の悲劇に入ってしまった。彼は戦争の中で生きるために鉄砲玉の中を怖そうな顔で走りました。でも、その戦争で銃弾が彼の足に当たって、彼は自分のあしを使えなくなりました。その時彼は考えました。「家で自分を待っている母と結婚を約束した彼女を考えたら今でも早く帰りたい」と。でも、自分の怪我さえ言える自由もないのが韓国出身の軍人でした。結局、彼のほっぺたには涙が流れていました。その涙には家族の懐かしさや、自分の悲劇的な現実が残っていました。

ついに、1945年、その長かった戦争が終わってしまいました。その青年が第二次世界戦争から戻ってきた私の祖父です。彼は私に日本について色々な悪い言葉を言いました。「日本人は皆わるい、僕はその悲劇的な歴史を絶対に忘れられない」など、私は彼に日本についての悪口をたくさん聞かされました。その時から、日本は私のかたきになりました。日本について悪い言葉を言うのは祖父だけではなく、学校やテレビなど私の周りのすべてが私をそんな風に教えさせられました。

でも、私のその考えがすべてなくなる機会がありました。それはカナダへの留学でした。カナダでは韓国とは違って、日本人と話せる機会がたくさんありました。初めはもちろん日本人がきらいで全然話したくはなかったのですが、日本人と始めて話してみたらとても親切だったから私はびっくりしました。その時から日本人の友達がどんどん増えて来ました。でも、私の考えはそんなに簡単には変わりませんでした。そんな私の考えをすべて変えたのは高校時代の日本人の友達です。彼女は私みたいな留学生で、誰にも優しいし、何でも一生懸命だし、韓国の人々がよく想像している日本人の性格とは全然ちがう人でした。

彼女に日本語や日本の文化についてたくさん教えてもらったのに、私はそんな彼女をうらんでいました。今は日本語の勉強を続けているし、日本人の友達とよくあそんでいるし、もう日本の文化に慣れたと思っています。今私は知っています。どんな悪い歴史も過去は過去だと。昔から、韓国と日本が一番近いとなりの国で、色々な分野で影響されたりしました。ただ、恥ずかしい歴史で、両方が相対を信じていないのが現実です。しかし、今は日本や韓国やアジアの各国がお互いに協力しなくてはいけない時代になりました。これからは豊かになるアジア各国は絶対世界からうらやまれるようになると思います。

皆様、今は一人では住めない協力の時代です。アジアの国だけではなく世界の皆様もお互いに協力して良い世界を作ってみましょう。ごせいちょうありがとうございました。

## なぜ大阪弁がメッチャ好きですか

Cathy Liu

「おおきに」、「何でやね」、「ほんまに分からへん」、「めっちゃ好きやねん」、これらの言葉は大阪弁なので、外国で日本語を勉強している学生にとってはよく分からない表現でしょう。実は、私も10か月間、大阪に留学する前までは、この大阪弁に触れたことが全くありませんでした。けれども不思議なことに大阪弁を初めて経験したにも関わらず、すぐ好きになりました。なぜ、大阪弁が私にとって、それほど魅力があるかということを皆さんにお話したいと思います。

まず、最初に気が付いた点は、共通語と違うイントネーションやアクセントでした。リズムカルで強弱があり、耳に気持ちよく聞こえました。私が初めて大阪に着いて、日本の大学生二人に会った時、すぐ友達になれる感じがしました。そして、初めての私がすぐ仲間に入れたのは、多分二人が大阪弁で、冗談を言ったり、お互いに「あほう」と呼んだり、間違ったことを笑っていたからでしょう。勿論、その時、私は二人の日本語がよく分かりませんでした。けれども、とても自然で、楽しそうでストレートな感じがして、緊張していた私もいつの間には一緒に笑っていたのです。

大学の授業で日本語の会話は断る時相手の気持ちを考えて「ちょっと・・・」とか「ええ・・・でも」などと、あまりはっきり言わないと習いました。けれどもだんだん大阪弁に慣れてくると、とてもオープンで、お互いの気持ちを正直に伝え合っているのではないかと思いました。この点は、私達、外国人の日本語学習者にとって、とても気が楽で、分かりやすいと思いました。大阪弁で「かまへん、言うてみいな」、「・・・どない思うん？」と言われると、何でも正直に言えそうな気がします。

また、大阪弁が、私の母語の中国語の方言の一つ、広東語とどこか似ていることにも気が付き、自分でもびっくりしました。広東語は大阪弁と同じように言葉の音にリズムや活気があること、そして話している人も元気でストレートな性格の人が多いようです。だから初めから親しみを感じたのでしょう。これで、なぜ私が大阪弁に魅力を感じたか自分でもはっきりしました。

以上の私の体験から、もし、大阪に留学するなら、是非大阪の文化の核と言える大阪弁を勉強することをお勧めします。いきなり大阪弁を使うのは大変難しいことですが、どうぞチャレンジしてみてください。今、私は、共通語としての日本語の勉強は勿論、大切だと思っていますが、もっと大阪弁が話せて大阪の人たちと心から笑って、会話が出来たら本当に楽しいだろうなと思っています。皆さんも共通語だけでなく、自分の好きな方言を

探して、使ってみたらどうでしょうか。いいと思いませんか。「ええんちゃう?」。皆さん、ご静聴「ほんまに、おおきに」。ありがとうございました。

大学・一般部門  
第18回上級第1位

## ジャパングリッシュ

Yoori Lee

「このスーパーのリーフレットみて、ワンストップストアで、デリバリもしてくれる  
そうだからリードタイムがショートで便利だな。」

皆さん、私が今言ったことをどう思われますか。わかりやすい、きれいな日本語でしょうか。最近外来語の使いすぎをめぐる議論が盛んで、「さっぱり分からない、日本の伝統を破壊する外来語を使うな」などの声がたかまってきているようです。また、国立国語研究所も2003年に、「外来語委員会」を設置し、外来語に対しての理解度・定着度、つまり、その分かりやすさについての大規模な調査を行い、その結果に基づいて「外来語言い換え提案」をし続けてきました。果たして、外来語は言い換えるべきなのか、そして、その必要があるとすれば、国研のように分かりやすさだけに基づいて、その言い換えを決めているのでしょうか。私は外来語を二種類に分けて、外国人学習者としての、わたしなりの提案をしてみたいと思います。

まず、外来語の元の意味がそのまま使われている言葉について考えてみましょう。確かに、国研が提案したように、「きょうのミーティングのアジェンダは何ですか。」を「今日の会議の検討課題は何ですか。」に言い換えたほうが分かりやすいでしょう。「検討課題」という日本語の言葉があるのなら、わざわざ「アジェンダ」という外来語を使う必要はないと思います。日本人だけでなく、私達外国人学習者も伝統的な日本語を学びたいのです。しかし、「リサイクル」や、「セクハラ」のような、もともと日本語にない言葉なら、どんどん取り入れていいと思います。こうすれば、日本にない目新しい物事や考え方も取り入れたり、社会における新しい現象も反映したりすることができるでしょう。

次に、一見英語のように見えて、実際は英語と全くちがう意味で使われている言葉、つまり、いわゆる和製英語もあります。和製英語はさらに二つに分けられると思います。一つ目は「スマート」、「はずかしがらずに、あの子にアタックしてみたら」の「アタック」などの言葉です。それぞれ「頭がいい」「攻撃する」と外国人によく誤解されます。この種の言葉はできたら廃止してもらいたいと思います。なぜなら、外国人にとっては、紛らわしい言葉なのです。しかも、日本人がこのような外来語を身につけてしまうと、英語を勉強するときの障害になるでしょう。

もう一つは、「ライブ・ハウス」「ポケベル」「ノン・パラ」などのような言葉です。きっとそれぞれ「バー」「ページャー」「親の世話に頼らないで、自立した生活をしている未婚者」の意味だと見当がつく外国人はほとんどいないでしょう。外国人にさえわからないこういった言葉を「外来語」と呼べるのでしょうか。本来の外来語と区別するため、「ジャパングリシュ」と呼んだらどうでしょうか。このジャパングリシュを通して日本人の民族性がうかがえて、その魅力も感じられると思います。なぜなら、それはただの模倣でなく、独創性と密接な関係があると言えるからです。「模倣は創造の母」という表現は日本人の特徴を正確に表していると思います。昔から日本は外国から数多くの文物を受け入れて、まねしながら自分で研究を重ねることによって、さらに新しいものを発明することができたのです。ソニー、ホンダのような世界的大企業がそのいい例です。日本が経済大国になった原動力はまさにこの模倣と創造精神であると思います。

言葉は時代とともに変化していくもので、その変化を恐れることはないと思います。日本語の美しさを失わないように、外来語を適宜に日本語に言い換える必要があると同時に、変化に応じてどんどん新しいものを取り入れたり、作ったりする必要もあると思います。そして「カラオケ」のような世界中に広まったジャパングリシュがこれからもますます作り出されることこそ、日本語をよりおもしろい、魅力ある言葉にするのではないのでしょうか。

大学・一般部門  
第18回上級第2位

## たまごっちのブームから日本人の集団意識を

Linda Wu

「お母さん、今日は買えた?」「いいえ、今日も売り切れちゃったよ!何時間も並んだのに・・・」最近、こんな会話が日本の子供にとって日常茶飯事だそうです。一体、どんな商品がそんなに人気があるのでしょうか。実は、新しくできたゲームではなく、新しいキャラクターでもありません。たまごっちなのです。

たまごっちが日本で人気になったのは実は初めてではありません。1997年にも日本でブームになりました。そのブームがいちど落ち着きましたが、2004年に「たまごっちプラス」が発売されるとともに再び人気になり、1年間で売上個数が650万個も超えたそうです。

九年前に誰も要らなくなったたまごっちが再び人気になるなんてすごく不思議だと思う一方で、それも日本文化の特性の表れだと私は思います。日本人はもともと集団意識が強い民族であり、周りの人と同じことをする傾向があります。たまごっちのブームもその強

い集団意識の現われではないでしょうか。皆持っているからどうしても手に入れたいくなります。そして、皆が買いたくなるからこそ、注文が殺到し、ブームになるのです。

個人主義が重視される現在、日本人のそういった集団意識が日本国内でもよく非難されています。それは、集団意識が強すぎると、個人の想像力が発揮しにくく、新商品の開発などができなくなるという考えがあるからです。そういった集団意識はもう新しい 21 世紀に適していないと言っている人も多くいます。

しかし、たまごっちのブームから集団意識のいい点を否定はできないということがわかります。経済の面で言えばまずは、集団意識が強いからこそ、商品の開発や改良があることです。今のたまごっちプラスには最初のたまごっちに比べるとさらに優れた想像力が見えます。最初のたまごっちは単なるえさを与えたり掃除をしたりするゲームでしたが、今のたまごっちプラスには様々な職業や家庭訪問もあるようです。子供のおもちゃにそんな苦心の跡が見えるのは、集団意識のおかげではないでしょうか。集団意識が強く、皆同じものを買いたくなり、そして物が売れるからこそ、企業にしてみれば新商品の開発や導入に価値があります。集団意識がブームを呼ぶ。企業はブームのきっかけを作るために積極的に商品の開発に力を入れる。だからこそ、経済がより良くなる可能性があるのではないのでしょうか。

もう一つは集団意識が強く、皆が会社のために休日などを犠牲にしたからこそ、日本がここまで成長できたということです。例えば皆さんがよくご存知のソニー、1945 年には実は炊飯器さえ作れなかった会社でした。いったいどうやって電気製品の会社として世界で有名になったのでしょうか。それは、会社全員の努力と想像力でしかできなかったことです。実は、ソニーには自由な意見を求める投書システムがあるのです。ソニーの従業員であれば、トップも工場の行員も自分の発想を投書することができ、そして、一旦その発想が採用されたら会社の全員でその発想を実現することを目指すのです。だからこそ、ソニーがここまで成長できたのです。

ソニーの例とたまごっちの例から、日本が国際競争に負けないために必要な力は集団意識だと言えるのではないのでしょうか。集団意識を捨て、個人主義だけを重視するよりも、ソニーのように集団意識と個人主義のバランスを見つけるほうがよいのではないかと思うのです。現在も将来において、集団意識が弱くなると国の競争力が企業の力とともに減っていくとおもうのです。ですので、経済面で言えば、21 世紀においても、集団意識を捨ててはいけないと私は思います。

## アイコンタクトについて

Jessica Lu

皆さん、人と話をするとき、相手の目を見ながら話しますか。知っている人にも知らない人にも同じようにするでしょうか。今、皆さん、すぐお隣の人にご挨拶してみてください。アイコンタクトはいかがでしたか。実は、今からこの相手の目を見て話す、つまり「アイコンタクト」について、私の家族とある日本女性との間に起きたエピソードをお話したいと思います。

私が高校のときに、母が和子さんという日本女性と知り合い、友達になりました。彼女は台湾人のボーイフレンドと結婚するためにバンクーバーにやってきましたが、そのころお金をあまり持っていなかったため、私の家で結婚式をすることになりました。

私達が和子さんと付き合い始めたころ、話すとき、いつも和子さんは首を横に曲げて、私達の目を見ないで話しました。結婚式の準備の話し合いでも、結婚式でも、それに、私たちにお礼の食事をご馳走してくれた時も、話している間、和子さんはめったに私たちの顔を見ないで、まったくアイコンタクトがありませんでした。どうしてなのだろうかという疑問が私達家族の心の中にどんどん広がってきましたが、その理由を聞きかねてしまいました。ところが、ある日、まだ六歳だった妹が、突然「和子さん、首がいたいの。」と聞いてしまったのです。そのとき、和子さんはびっくりした顔をして、「いいえ、私の首は大丈夫よ」って答えました。それで、私達家族は、首を横に曲げるのは体の原因ではなかったんだと分かり、ほっとしました。きっと彼女は恥ずかしがり屋の人で、アイコンタクトをしないのは内気な性格の現われだと思いました。けれども、その後、日が経つとともに、和子さんが次第に社交的で、性格が明るい人だということが分かったのです。

大学に入ってから、私は多くの日本人の友人達と付き合いようになりましたが、彼らも話している時、ほとんどアイコンタクトをしなかったのです。私は、日本語や文化についての心理学の授業で、日本の人が直接的に自分の意見を言ったり、強い態度を避けることを知っていました。けれども、この実際の経験はとてもよい勉強になりました。皆さんもご存知のように、ここカナダでも、私が育った台湾でも、相手の目を見ながら、自分の意見をはっきり言うのは、相手を尊重し、自分の気持ちを誠実に表すという意味があります。しかし、それに対して、日本人にとっては、相手の目をジーッと見たり、見られたり、またあまりはっきりと自分の意見を言うのは、相手にプレッシャーや挑戦的な印象を与えてしまうようです。日本の社会では、特に目上の人や年上の人には失礼になると言われています。これで、和子さんのアイコンタクトをしない理由がはっきりとしました。ボディランゲージはその国の文化によって、マナーも違ってきます。多様文化の国、ここ

カナダに住む私たちは、民族間の誤解を避け、よい人間関係を保つために、それぞれの違いを知ることが本当に大切だと思います。

私達家族が経験した友人の和子さんは、今ではカナダの習慣に慣れ、首を曲げずしっかりとアイコンタクトをしながら話しています。皆さん、どうぞご安心ください。最後に日本の皆さんへ、私からのメッセージです。カナダにいらしゃったら、どうぞ話すとき相手とアイコンタクトをしながら話してください。もちろん、スマイルをお願いします。さて、今日の私のスピーチでのアイコンタクトはいかがだったでしょうか。皆さん、スピーチをお聞きくださいまして、ありがとうございました。